

# 概要

## 2011年【古典を読む-歴史と文学-】 「いま明かされる古代X XVIII」

### 第5回 古代の天皇祭祀 - 「神事優先」と「神仏隔離」 をめぐって -

開講日時： 7 / 23 (土) 午後 2 : 3 0 ~ 4 : 3 0

講義会場：金鷄会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：国立歴史民俗博物館 歴史研究系 准教授  
総合研究大学院大学 文化科学研究科 併任  
小倉 慈司(おぐら しげじ)先生

概要：鎌倉時代の順徳天皇が著わした故実書『禁秘抄』は「およそ禁中の作法は神事を先とし、他事を後とす」という文言で始まっていますが、天皇と宗教との関わりを考えると必ずといって良いほど持ち出されるのが、この「神事優先」の原則です。これは古代から現代にいたるまでの皇室の伝統であると言われていています。また明治に入って神仏分離がなされる以前から、皇室祭祀においては神事の際には仏教を遠ざけるという「神仏隔離」の原則が存在していたことが指摘されています。なぜ天皇は「神事優先」なのか、なぜ皇室祭祀において「神仏隔離」がなされるのかを、古代における天皇と宗教との関わりを検討することによって、考えてみたいと思います。